



三陸鉄道北リアス線 カルボナード島越駅

施工地／岩手県下閉伊郡田野畑村松前沢4-1
竣工年月／平成26年7月
敷地面積／882.80㎡
延床面積／330.52㎡
構造／鉄骨造 2階建

地域とともに歩み出す新銀河ステーション

三陸復興の先駆けを担い、平成26年4月に全線開通を果たした三陸鉄道。島越駅は三陸鉄道北リアス線が走る岩手県田野畑村にあります。駅の愛称は「カルボナード島越」宮沢賢治の童話『グスコーブドリの伝記』の舞台の“カルボナード火山島”から由来します。

東日本大震災以前の島越駅は八角形の白い搭屋に青いドーム屋根を乗せたメルヘンチックな建物で多くの観光客や鉄道ファンに親しまれました。夏には三陸鉄道のどの駅よりも近くに海水浴場を控えてにぎわいを見せていましたが、その浜辺も津波で消滅しました。島越駅も駅舎、ホーム、高架線路のすべてが流失し、かろうじて残った階段は今は震災遺構として保存されているのみで三陸鉄道の沿線では最も甚大な被害を受けた地域となりました。

新しい駅舎は2階部分を八角形の搭屋とし、その上にドーム屋根が乗る設計は震災前の駅舎のイメージを重ねたものです。さらに駅としての機能はもとより観光・交流の拠点としても活用できるように計画し、島越駅は地域再生の先導的シンボルとして地区住民の生活を支え、ここを訪れるすべてのお客様のためのステーションに生まれ変わりました。



平成23年3月11日の東日本大震災で田野畑村島越地区に襲いかかる大津波の第一波。



津波により壊滅した旧島越駅付近。駅名の「カルボナード」由来の説明破壊された鉄道架橋が襲来した津波の威力の大きさを物語る。



駅名の「カルボナード」由来の説明文が記された宮沢賢治の詩碑。かろうじて流失を免れた。

旧駅舎と被災時の写真は田野畑村役場ホームページから引用しました。

漁村景観との調和

旧カルボナード島越駅より約100メートル北側の位置に移転した新駅舎は、旧駅舎のイメージを踏襲する特徴的な銅板葺屋根を中心に、重厚感を与えるレンガ調タイルを基調に、コンクリート打放しの無彩色系の色合いを採り入れ、周囲の景観に溶け込む落ち着いた意匠・色彩計画としました。内部は地域交通を担う駅としての役割と村内の観光情報を発信する観光拠点機能の充実に配慮し計画を行いました。駅舎中央には利用者をスムーズに迎え入れる広場を配置し、村内の特産品を扱う物販・軽食コーナーは右翼部に、東日本大震災からの復興をテーマとする展示コーナーを左翼部に配置し、諸室を繋ぐ大型開口が施設全体の一体感を創出する空間構成といたしました。



展示コーナー

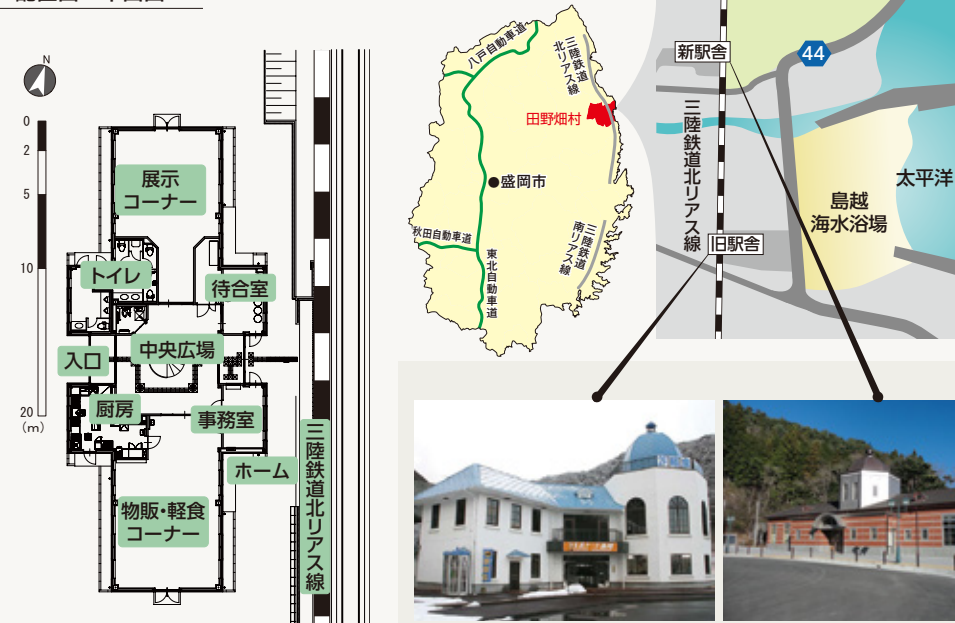


中央広場



物販・軽食コーナー

配置図・平面図



旧島越駅舎

新島越駅舎